

# 高校生に知ってほしい「韓国史」教科書に描かれる植民地期

東京女子大学准教授 森 万佑子

## 1. はじめに

1910年8月22日に締結された「韓国併合に関する条約」(公布は29日)によって、大韓帝国は日本の植民地となり、日本の一地域としての「朝鮮」となった。朝鮮人には日本国籍が付与されたが日本戸籍と朝鮮戸籍は厳格に区別され、憲法も施行せず大権によって統治されるなどの区別がされた。併合にともない統監府は朝鮮総督府になり、初代総督には寺内正毅(第三代統監)が就任した。総督は天皇に直隷して天皇に対してのみ責任を負い、駐軍の指揮権や制令制定権など絶大な権限をもった。

この日から、1945年8月15日までのおよそ35年間の歴史は、日韓が一つの国家として歴史を歩んだ期間である。しかし今日の日本と韓国で、この期間に対する歴史叙述および認識にはあまりに大きな隔りがある。本稿では、韓国の「韓国史」教科書の内容を紹介するかたちで、日本の「日本史」教科書にはほとんど記述されない植民地期朝鮮の歴史を整理することで、日韓の歴史認識問題を考えるきっかけを提供したい。

## 2. 「韓国史」教科書の現況

韓国の「韓国史」教科書は検定制で、現在9社の教科書が採択されている。2014年の教科書採択率は、進歩・左派に分類される5社(MiraeN, Visang教育, 天才教育, 金星出版社)が90%で、中道とされる2社(知学社, リベルスクール)は10%、右派に分類される教科書の採択率は0%であった。本稿では、採択率上位3社のMiraeN(33.2%), Visang教育(29.4%), 天才教育(16%)を中心に整理する。なお、韓国の教科書では「朝鮮」「朝鮮人」ではなく「韓国」「韓国人」を使用するため、本稿は韓国の教科書の雰囲気そのまま伝える目的で、韓国・韓国人を用いる。

韓国の「韓国史」教科書は、4部に分かれている。Ⅰ. 前近代韓国史の理解, Ⅱ. 近代国民国家樹立運動, Ⅲ. 日帝植民地支配と民族運動の展開, Ⅳ. 大韓民国の発展である。

MiraeNの場合、各々が扱う時代とページ数は、「Ⅰ. 前近代韓国史の理解」が紀元前2000年～1796年頃までで74ページ、「Ⅱ. 近代国民国家樹立運動」が1860年代から1910年までで70ページ、「Ⅲ. 日帝植民地支配と民族運動の展開」1910年から1945年8月15日までで76ページ、「Ⅳ. 大韓民国の発展」が1945年8月15日から今日までを扱い82ページである。韓国の「韓国史」教科書が、植民地期の35年間に割くページ数の多さが理解できるだろう。

## 3. 植民地期の記述

### ① 植民地統治の象徴

植民地期を叙述する「Ⅲ. 日帝植民地支配と民族運動の展開」は、次の六つに分かれている。1. 日帝の植民地支配政策, 2. 3・1運動と大韓民国臨時政府, 3. 多様な民族運動の展開, 4. 社会・文化の変化と社会運動, 5. 戦時動員体制と民衆のくらし, 6. 光復のための努力である。

「1. 日帝の植民地支配政策」の表紙写真は、日本の植民地支配がいかに朝鮮の国を壊し、朝鮮人に心理的負担を負わせたかを生徒に考えさせる。

例えば、MiraeNは1920年朝鮮神宮(1920年起工式、1925年竣工)の写真(写真1)を掲載し、男子学生「日帝がああ階段の上に大きな宮闕のようなものを建てたんだって…」と、女子学生「日本の建国神と韓国を侵略した明治日王(注: 天皇, 韓国の進歩・革新派は日王と称する場合がある—以下、注は筆者)の位牌を奉安するために建てたものだって」という会話を挿入している。そして、「当時、南山(注: 現在、ソウルタワーがある観光名所)の朝鮮神宮を

見たとしたらどんな気分になるかな？これを建てた日帝に言いたい言葉を書いてみましょう」という問いを掲げる。



写真1 朝鮮神宮の写真 (MiraeN)

Visang 教育は、朝鮮王朝の正宮・景福宮の一部を壊して建てられた朝鮮総督府の写真に、「日帝が景福宮の勤政殿（注：国王が政務を行う場）の前に総督府の建物を建てた理由は何だろう」と問いかけ、天才教育は西大門刑務所の写真に「西大門刑務所で拷問を受けたり殉国した独立運動家を捜してみよう」と問いを出す。

ソウルタワーや景福宮という現在のソウルの名所にも、日本の植民地支配の爪痕が残っていることを知らしめ、身近なところから日本の植民地権力の暴力性を考えさせる。

## ② 武断統治—暴力と収奪—

1910年代の武断統治期は3ページにわたり詳述される。武断統治（武断政治）とはむき出しの暴力による支配のことだが、その前提には憲兵警察制度があった。憲兵も警察も六割程度は朝鮮人で構成され、憲兵補助員や巡査補を担った。業務には、抗日勢力の情報収集、民事訴訟の調停から日本語の強制、農作物の作付の強制など多岐にわたり民衆の日常生活のあらゆる場面にまで影響を及ぼした。

Visang 教育は、憲兵警察制度について「日帝が韓国の国権を強奪して1年余りに3倍以上に膨れ上がった警察と憲兵が韓国人を統制した」と説明する。加えて MiraeN と Visang 教育が笞刑台、天才教育は

笞刑台でむち打ち刑を受ける人の写真（写真2）に、「朝鮮笞刑令」（1912年）の条文（第11条と第13条）を掲載し、朝鮮人だけが秘密裡に笞刑を受けた不条理を記載する。



写真2 左：笞打に遭う人と憲兵（天才教育）  
右：笞打台（MiraeN, Visang 教育）

また、日本が植民地期を通して朝鮮近代化の土台として鉄道敷設などを大規模におこなったことは周知の事実だが、「韓国史」教科書は、これらを日本資本主義による「収奪」として説明する。つまり、日本は鉄道、道路、港湾と通信網などの基幹施設を新設したが、それは韓国に対する政治的支配を強化し、自国の商品市場を拡大し、韓国の食糧・原料を日本に持ち出す意図によるものであり、結果的に韓国人の産業活動は大きく委縮し、韓国経済は日本資本主義体制に従属したという見方である。

最後に、武断統治期の主要な出来事として土地調査事業（1910～1918年）が挙げられる。土地調査事業は日本の「日本史」教科書も取り上げ、実教出版社『日本史B改訂版』は、調査の過程で多くの農民の土地が国有地に編入させられ東洋拓殖会社や日本人地主などに払い下げられたこと、農民は小作人に転落したことが記載される。山川出版社『詳説日本史B改訂版』は、多くの朝鮮農民が困窮し、「一部の人びとは職を求めて日本に移住するようになった」と在日朝鮮人の起源にも触れるが、いずれも注釈での説明で、高校の授業でどれだけ活用できているのかは分からない。後述するように、土地調査事業は今日の在日朝鮮人の歴史に深く関わり、日本史にとっても重要な出来事である。

一方、「韓国史」教科書の説明は内容・分量ともに異なる。いずれの教科書も半ページを割き、日本の都合による無慈悲な「収奪」を強調する。土地調査事業によって、1915～1922年の地税収入額が1.5

倍に増加した「成果」を示しつつ、①全国の土地所有権を確認して植民地支配に必要な財政を確保しようとした、②申告方式だったため複雑な手続きや書類不備などで朝鮮人の所有が認められず所有権を失ったケースが多かった、③農民の慣習的な耕作権（小作は地主に小作料だけを払えば長く耕作できる慣習）は認めなかった、④一部の大地主を除き、朝鮮農民は高額な小作料を不利な条件で地主と契約することになり地位が弱化し一部火田民となったり満洲や沿海州などに移住したりした、と説明する。日本人による日本人のための政策であったこと、朝鮮文化を無視した日本の強圧的な政策が朝鮮人を苦しめたことに力点をおくのである。

### ③ 3・1 独立運動

3・1 独立運動は、「日本史」教科書でも言及されるが、韓国併合や土地調査事業の叙述とは異なり、パリ講和会議とヴェルサイユ体制による新しい国際秩序のなかで、民族自決の国際世論が高まった文脈で登場する。さらに中国の5・4 運動とも併記されるため、日本の生徒にとっては、3・1 独立運動が朝鮮にとって日本の「不当な」植民地支配に対する朝鮮人の独立運動であることが読み取りにくくなっている。

一方、「韓国史」教科書は、MiraeN が12 ページ、Visang 教育と天才教育は10 ページを3・1 独立運動にあてる。項目は、MiraeN の場合、①抗日秘密結社と国外独立運動基地建設、②3・1 運動の展開とその意義、③大韓民国臨時政府の樹立と活動で、日本の教科書が指摘する3・1 独立運動当日の出来事

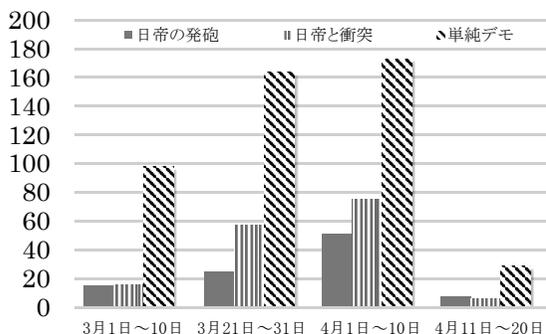


図1：3・1 独立運動の時期別闘争形態と日帝の弾圧 (MiraeN)

だけではなく、その前史となる義兵運動、中国やアメリカでの独立運動、東京にいる朝鮮人留学生らが作成した2・8 独立宣言などから説き起こす。加えて、3・1 独立運動がソウルを中心に朝鮮半島全域に広がったことや、時期別の収監された朝鮮人の階層別人数なども示す。図1の通り、4月1日～10日の弾圧件数が最も多く、職業別では農民が58.4%、学生が20.8%、商工業者13.8%の順が多い。

また、3・1 独立運動に参加した女性（柳寛順 [ユ・ガンスン]、写真3）も取り上げながら、女性自らも歴史の主体としての自覚を高めたと指摘し、ジェンダーの観点からも3・1 独立運動の理解を深める工夫がされている。最後に、3・1 独立運動後に運動を主導した勢力がのちに上海で大韓民国臨時政府を樹立し、現在の韓国の憲法前文には、上海臨時政府の法統の継承を明白に記していることを書く。



写真3：柳寛順受刑者収監記録証 (Visang 教育／天才教育)

### ④ 文化統治への転換—民族分裂統治—

3・1 独立運動の衝撃としての文化統治への転換は、日本の教科書ではほとんど言及されていない。そのため日本の生徒にとって、35年間にわたる朝鮮総督府の植民地統治が、朝鮮人の抵抗を受けながら変容したこと、支配と被支配の相互反応のなかで統治構造が構築されていたことを理解するのが難しい。

朝鮮総督府は3・1 独立運動に大きな衝撃を受け、日本人の朝鮮人に対する侮蔑的態度や、官吏待遇や教育の格差、朝鮮の慣習を無視した急激な制度変更が原因だったと理解した。その結果、言論・出版・集会・結社に対する取り締まりを緩和した。教

育面では内鮮共学を標榜し（実際は日本人・朝鮮人の別学体制だった）、普通学校の数を増やして教育体制を強化し（但し、朝鮮人就学率は日本人と比べると低かった）、高等教育では日本の帝国大学制度を移植して1924年には京城帝国大学を開設した。

また、会社令を廃止し、朝鮮人による会社設立の制限をなくした。しかし実際に恩恵を受けたのは、三井や三菱などの日本の財閥企業で、朝鮮人設立会社も存在はしたが著しく少なかった（図2）。

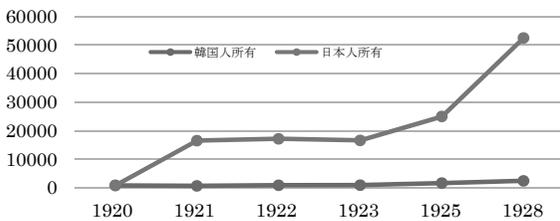


図2：韓国内に本店を置く会社の資本金比較 (MiraeN)

1920年末からは産米増殖計画も実施された(1920～1934年)。朝鮮半島北部では稲作はほとんど行われておらず、食料不足と米価高騰が予測された。日本は、第一次世界大戦後の米不足に対応するには、植民地である朝鮮からの移出に頼る以外の方法はないと考え、朝鮮での土地改良事業をはじめとした産米増殖計画をおこなった。その結果、米の生産高は増加したが、移出高はそれを上回る増加を見せ、朝鮮人の貧困層は一層厳しい状態におかれた。

産米増殖計画についても、韓国の教科書三社は半ページを割いて詳述し、産米増殖計画は日本の計画通りに米の生産量は増えたが、ほとんどが日本への移出用だったと強調する。根拠として、韓国人一人あたりの米消費量が、日本人一人あたりの米消費量と比べると常に少ないうえ、1920～1930年で年々減少することをグラフで示す。そして何よりも、この政策によって、高い小作料や地稅、肥料や土地改良費などの農民の負担が増え、生活に困窮した農民が満洲や沿海州、日本などへ移住した反面、土地会社や大地主は大農場をさらに広げたと、同じ朝鮮人どうして分裂が生じたことを説明する。つまり、文化統治を「民族分裂統治」と「経済収奪の拡大」と解釈し、文化統治への批判的思考を養う。

また、写真4のように、文化統治期以降の警察官署の増加、警察人員の増員、警察費用の急増を指摘し、「文化統治」の実態を考えさせる。1925年の治安維持法についても説明し、それによって朝鮮人の抗日民族運動に対する監視と弾圧が強化し、多くの朝鮮人が拘束された事実も示す。朝鮮総督府の地方制度改編や、朝鮮人に参政権を付与する政策検討にも触れながら、それらはあくまでも独立運動を自治運動に誘導して親日勢力を養成するためだったとの解釈を示す。文化統治は日帝の協力者を養成する反面、抗日民族運動を弾圧する「民族分裂政策」(Visang教育と天才教育は太字で強調)だったと説明するのである。



写真4：警察制度の強化（左：警察機関〔個〕，中：警察人員〔名〕，右：警察費用〔万ウォン〕）Visang教育

## ⑤ 戦時体制の民族抹殺統治

戦時体制下の皇民化政策については、「日本史」教科書でも開戦後の戦局の転換と占領地支配の実態を説明する箇所では取り上げられている。この場合の皇民化政策は、大東亜共栄圏の理念のもと日本語使用強制の例が挙げられている。

他方、「韓国史」教科書は、戦時動員体制によって朝鮮人の生活・文化がより一層傷つけられたことを強調する。三社の教科書が取り上げるのは、児童用の皇国臣民の誓詞（①私共は大日本帝国の臣民であります。②私共は心を合わせて天皇陛下に忠義を尽くします。③私共は忍苦鍛錬して立派な強い国民となります）と、それを唱える朝鮮人児童の写真である。つまり「韓国史」にとっての皇民化政策は、日本人の生徒が教わるような日本語使用の強制や創始改名のような同化政策だけでなく、神社参拝

や宮城遥拝など身体の動きを通じて理屈抜きに、内面から朝鮮人を天皇に忠誠を尽くす大日本帝国臣民に作り変えようとした政策の側面も強調して説明される。神社参拝拒否者（キリスト教徒など）の処罰や、私立学校閉鎖などの史実も加え、皇国臣民化政策が日本帝国主義の弾圧下で進められたことも付す。

また、MiraeN は三菱製鉄会社の製鉄所、Visang 教育と天才教育は野口財閥の朝鮮窒素肥料工場の写真を掲載し、日本の朝鮮半島における兵站基地化政策についても詳述する。その上で、朝鮮総督府が国土の均衡的な発展よりも日本の独占資本の利益を優先したために、朝鮮半島南部には農地や軽工業が多く、北部に重工業が多くなり、終戦後の朝鮮半島の産業不均衡を招来したと説明する（図3）。現在の南北分断体制の遠因としての日本の植民地支配を考えさせるのである。

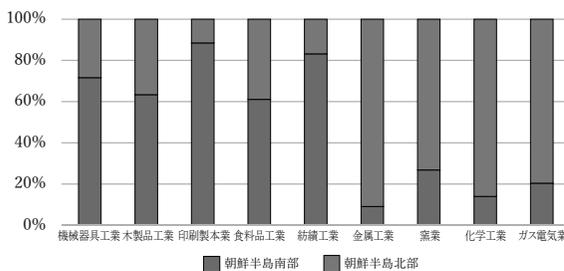


図3：1940年の南北朝鮮地域の工業生産比率 (Visang 教育)

最後に、探究学習の項目として「慰安婦問題」を写真付きで取り上げている。特に、MiraeN は慰安婦を「性奴隷」と表現し、日本大使館前で「日本軍性奴隷問題解決のための定期水曜デモ」が開かれる状況にも触れ、「日本軍性奴隷問題は、長い時間が経った今でも忘れてはならず、記憶しなければならない理由は何だろうか、説明してみよう」を探究活動のテーマとする。天才教育は、妊娠させられた慰安婦の写真や回顧録を掲載して、生徒の感情に訴える。一方、日本の高校生は「(慰安婦問題について) 聞いたことがある」程度の知識しか持たない。慰安婦問題は今日の日韓関係にも大きな影響を及ぼしている問題であるため、こうした日韓の生徒間の知識落差は、将来の日韓関係にも影を落とすことが懸念される。

#### 4. 朝鮮人の日本移住と在日朝鮮人

1923年9月1日に発生した関東大震災によって、多くの朝鮮人が流言によって虐殺された。しかし、そうした朝鮮人が、いつから、どのような理由で日本に移住したかについては、「韓国史」教科書は土地調査事業（1910～1918年）と産米増殖計画（1920～1934年）で困窮した農民の移住を示唆するものの、「日本史」教科書も含め、今日に続く在日朝鮮人の歴史にもつながる朝鮮人移住の史実を十分に学ぶことはできない。

朝鮮人の日本内地渡航・帰還者数の推移（図4）を見ると、ほとんどの時期で帰還者数が渡航者数を上回らない。つまり、一度日本に渡航した朝鮮人は日本での定住を選択し、植民地期を通じて朝鮮に帰還する者が少ない（但し、朝鮮の故郷との往復は比較的多かったとされる）。この点は、日本に移住した朝鮮人の90%以上が、日本との往來が比較的容易な朝鮮半島南部出身者で、特に、慶尚南北道、済州島そして全羅南道出身者だけで81%を占めることに関係しているだろう。

つまり、土地調査事業や産米増殖計画などによって、稲作に適している朝鮮半島南部の農業従事者の生活が困窮して日本に移住したこと、そうした農民の多くは貧困で教育が不十分であったため、非熟練の賃金労働が可能な大阪（大阪だけで約25%を占める）や東京、兵庫や愛知といった都市部や工場地帯に集結して移住した。こうしたことは、産業別人口からも指摘できる。朝鮮半島にいる朝鮮人の七割以上は第一次産業に従事している一方で、日本に移住した朝鮮人の第一次産業従事率は一割程度で、第二次産業や第三次産業従事者が圧倒的に多い。第一次産業従事者が依然、四割以上だった日本（日本人）の産業別人口とも構図を異にする。つまり、朝鮮人を受け入れる日本には、いわゆる3K労働を低賃金で担ってくれる朝鮮人雇用の需用があった。そうしたなか、朝鮮半島よりはましな生活・教育環境などから、日本に移住した朝鮮人労働者は、のちに家族を呼び寄せ定住するようになる。

今日では、こうして日本に定住するようになった在日朝鮮人には、日本国籍に帰化する者も多くなり、

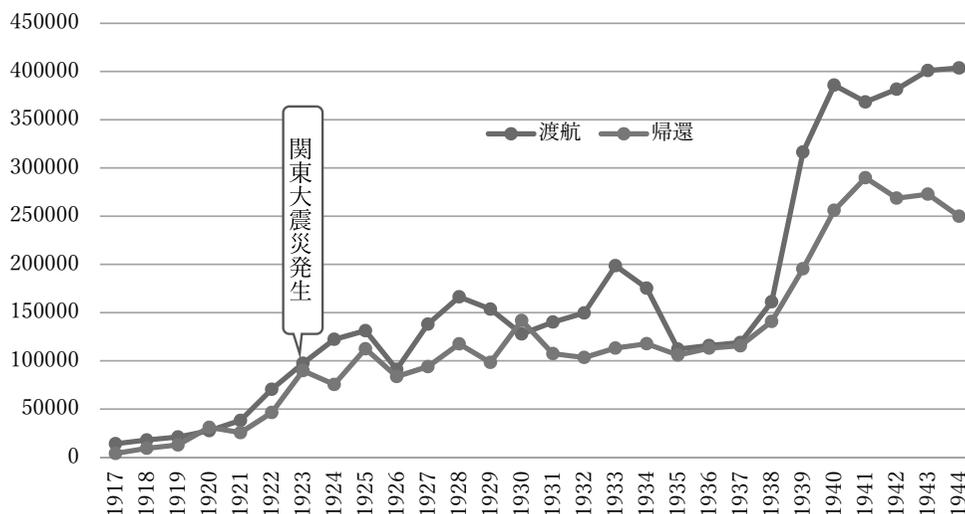


図4：朝鮮人の日本内地渡航・帰還者数の推移 (1917～1944年)

ほとんどが民族学校ではなく日本の学校に通っている。しかし、在日朝鮮人は日本史と深く関わりをもつ民族であり、多民族・多文化共生のためには、在日朝鮮人の歴史や文化についても生徒に考えさせる機会を持つ必要がある。

## 5. おわりに

植民地支配は、支配した側と支配された側の両面から考えるべきである。しかし、支配した側の日本の「日本史」教科書は、日本本土の史実が中心で、朝鮮半島での支配についてはほとんど記さない。他方、支配された側の韓国の「韓国史」教科書は80ページ近くを植民地期に割り、一つの章を構成して多角的・多層的に教える違いがある。

韓国の「韓国史」の教育要綱の一つには、「アイデンティティと相互尊重—歴史意識を涵養し、他人を理解・尊重する態度をもつ能力」がある。歴史教育がアイデンティティ形成に結びつくことに自覚的な韓国の歴史教育と、それを強調しない日本の歴史教育には距離がある。日本の実証主義史学の観点か

らは、過去の史実を踏まえてより良い未来を築こうと教える。しかし、史料は往々にして権力を持つ者のもとで記録され、残されるため、権力を持たない支配された側は、それを語る史料が限られる。「韓国史」教科書が民族主義史学の影響を受けるのはこうした理由もある。

日韓が一つの国家として歩んだ1910～1945年の歴史を、日本史と韓国史という異なる二つの国家のナショナル・ヒストリーとして、さらに異なる歴史学の観点から学ぶ現在のままでは、歴史対話は厳しいままだろう。

だからこそ、ぜひ高校生には、K-Popアイドルに関心を寄せるのと同じように、そのK-Popアイドルが韓国で学んでいる「韓国史」にも関心を持って欲しい。「韓国史」教科書の近代史に日本はどのように登場し、植民地期では日本がどのように描かれているのか。未来を担う高校生には、韓国側の論理も知った上で、より良い日韓関係に取り組むために、たくましい知性を育ててほしい。